

8 木簡の釈文・内容

(1) 「籾四斗御□中

(202)×18×8 011

(2) 「御倉籾四斗三郎太郎□□」

232×19×5 011

(1)は下端に焼痕があり、わずかに欠損している。二点ともに泥炭層からの出土であり、鎌倉時代後半に比定される。釈文中の籾四斗の表現から一俵の米俵を意味したものである。

9 関係文献

北九州市教育文化事業団

『辻田西遺跡』（北九州市埋蔵文化財

調査報告書第十三集）

一九八二年

（栗山伸司）

木簡研究 第三号

巻頭言——中国簡牘呼称についての提言——

大庭 脩

一九八〇年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 平城京左京（外京）五条五坊七坪 藤原宮

跡 稗田遺跡——下ッ道——長岡京跡 大蔵司遺跡 西沖遺跡

御殿・二之宮遺跡 野路岡田遺跡 多賀城跡 漆町西遺跡 桜

町遺跡 白山橋遺跡 御館遺跡 御着城跡 鵜・城山遺跡 草戸

千軒町遺跡 野田地区遺跡 観世音寺僧房跡 大宰府学校院跡東

辺部

一九七七年以前出土の木簡 ㊦

平城宮跡（第二次・第二次北） 薬師寺 下岡田遺跡

中国における簡牘研究の位相

池田 温

庸米付札について

狩野 久

静岡県城山遺跡出土の具注曆木簡について

原 秀三郎

草戸千軒町遺跡出土の木簡——形態を中心に——

志田原重人

彙報

頒価 三五〇〇円 千四〇〇円